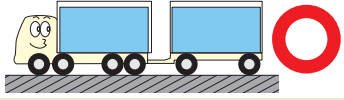
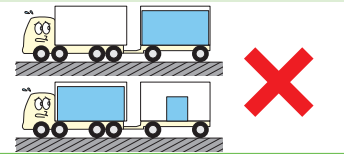


### 荷物の積載方法

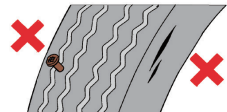
フルトレーラとトラクタは表示積載量に比例した重量配分となるよう荷物を分配して積載してください。



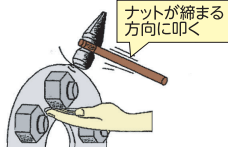
トレーラとトラクタの不均等な積載は走行性能、制動性能が不安定となり大変危険です。



### タイヤ&ハブナットの運行前点検実施

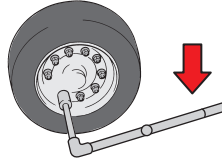


3.2mm以下高速走行禁止  
1.6mm以下走行禁止



10穴ホイールは左右とも、右ネジになります。

ナットの締付けは**対角の順番**で



勢いをつけず、ゆっくり徐々に締付けます。

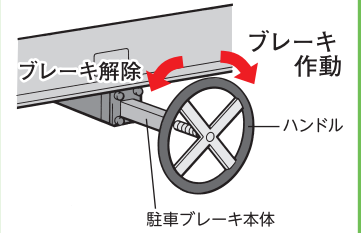
締付け順序



締付け規定トルク

- ① 10穴スチール&アルミ共通(ドライタイプ) .....600Nm~660Nm
- ② 8穴スチール(ウエットタイプ).....540Nm~590Nm
- ③ 8穴アルミ(ウエットタイプ).....440Nm~490Nm

### 駐車ブレーキの解除

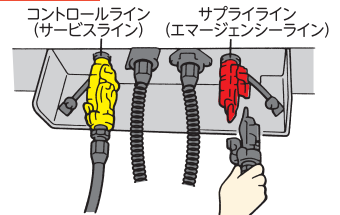


走行する前は毎回ハンドルを左いっぱいに戻し「駐車ブレーキ」解除を確認してください。「駐車ブレーキ」を作動させたまま走行すると、ブレーキを引かずそのまま走行することになり、火災の原因となります。

### 接続順序厳守!

接続時 **コントロールラインを先に接続**

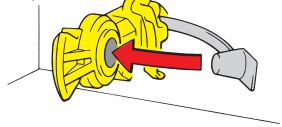
切離し時 **サブラインを先に切離し**



順序を誤ると車両が自走し重大事故が発生するおそれがあります。

### フタは必ず取付

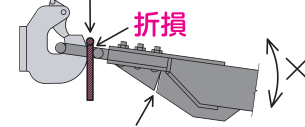
切離した際は雨やホコリの侵入を防ぐため、**必ずフタ**をして下さい。



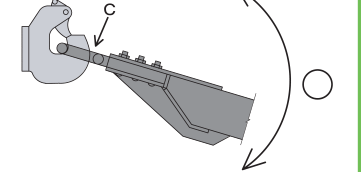
雨やホコリが浸入するとリレーバルブの凍結や作動不良の原因となります。また、サービスラインやエマージェンシーラインに入るとブレーキの解除遅れが発生し、引きずりの原因となります。

### ルネットアイとピントルフックの間に異物を挟まない

異物の挟み込み

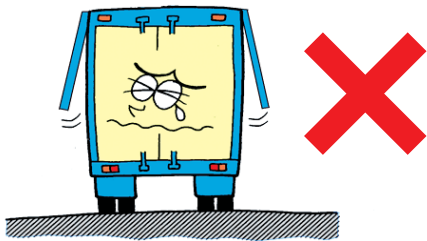


亀裂発生



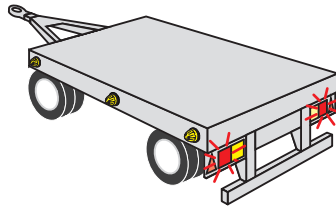
丸棒などを挟み込むとドーバの上下動が抑制され、ルネットアイの折損、ドーバフレームの亀裂などの重大事故の原因となります。

### 羽根は確実に閉める!



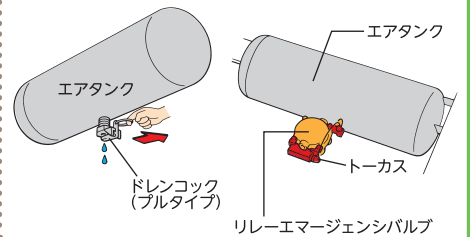
羽根を格納する際は、閉まってから2~3秒押し続け確実に閉め切ってください。閉まりきっていない場合、走行中に風圧で羽根が開く恐れがあり大変危険です。(ウイング車の場合)

### リレーエマージェンシーバルブの凍結について



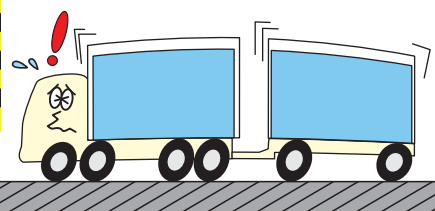
トレクスのトレーラはトカス(リレーバルブヒーター)が標準装備されています。(2006年~)トカスはスモール系の電源を使用しているので凍結時はスモールランプを点灯して下さい。(−10℃で凍結したバルブを約5分で正常に作動させます)

リレーバルブ凍結防止のため、始業開始時には必ずトラクタ&トレーラともにエアタンクの水抜きを実施して下さい。



### 異常を感じたら即停車

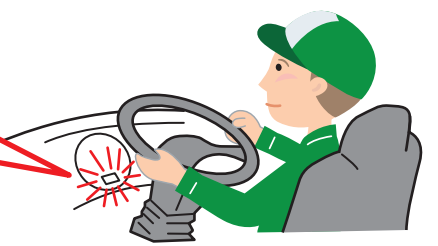
- ・タイヤのバースト。
- ・いつもより車両が重い。
- ・急に加速しなくなった。
- ・焦げ臭いにおいがする。
- ・スイッチ類から煙がでた。



走行中に異常を感じたら、安全を確保した上で即停車し、車両を点検してください。

### エア圧低下注意

一晩置いてエアが**100kPa以上減**っていたら**要点検**



トラクタと連結して1晩置いた際、エア圧が 100kPa 以上減っていたら、エア漏れの点検を実施してください。

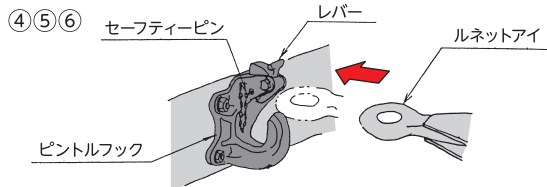
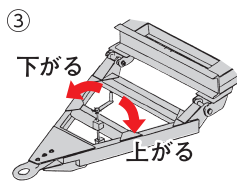
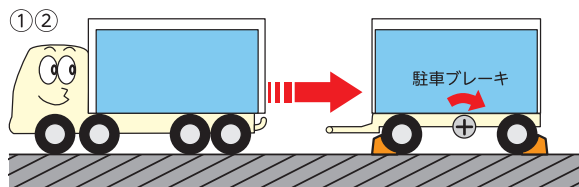


# 日本トレクスから安全輸送のお願い

## フルトレーラ 連結切離し、整備編

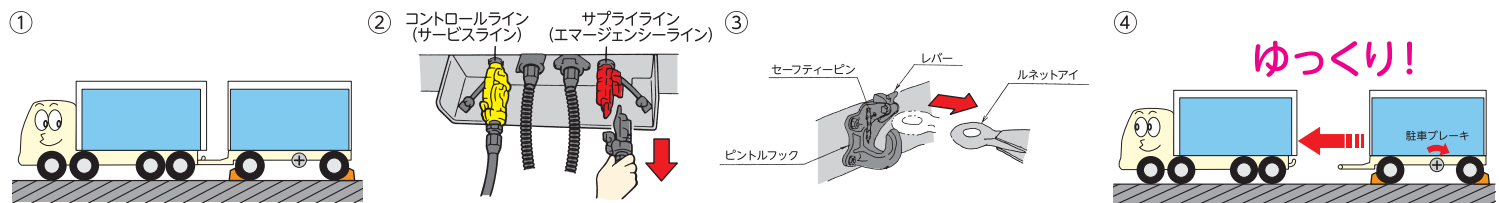
### 連結作業

- フルトレーラを平らな場所に置き駐車ブレーキを作動させてタイヤに車輪止めをセットしてください。
- 駐車しているフルトレーラに対して、トラクタをバックさせ、ルネットアイとピントルフックを接近させてください。(フルトレーラとトラクタを一直線にそろえると連結が容易になります)
- ドローバの高さ調整ハンドルを操作してルネットアイとピントルフックの高さを合わせてください。
- ピントルフックのセーフティーピンを抜きレバーを解除してください。
- 再度、トラクタをゆっくりバックさせてルネットアイをピントルフックに連結させてください。



- ルネットアイがピントルフックに確実に連結されていることを確認して、セーフティーピンを取付してください。
- ケーブル類およびホース類を接続してください。始めにコントロールライン(黄)を接続してください。次にサプライライン(赤)を接続してください。その後、7極/ABS/4極の各ケーブルを接続してください。最後にセーフティーチェーンを確実に取付して完了です。(順序を誤ると自走し重大事故に至る恐れがあります。)
- トラクタのブレーキペダルを2~3度踏み、ブレーキが正常に作動することを確認してください。
- トラクタ側の操作により全ての灯火器が正常に点灯することを確認して出発してください。

### 切離し作業



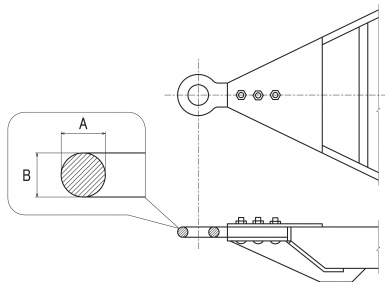
- 連結されているフルトレーラを平らな場所に置き、フルトレーラの駐車ブレーキを作動させて、タイヤに車輪止めをセットしてください。
- ケーブル類およびホース類を取り外してください。始めにサプライライン(赤)を外してください。次にコントロールライン(黄)を外してください。その後、7極/ABS/4極の各ケーブルを外してください。最後にセーフティーチェーンを取り外して完了です。(順序を誤ると自走し重大事故に至る恐れがあります。)
- ピントルフックのセーフティーピンを抜き、レバーを上げ、ドローバの高さ調整ハンドルを回してルネットアイを上げてピントルフックから外れる状態にしてください。
- トラクタをゆっくり前進させ切離してください。

### ルネットアイの磨耗限度

#### ルネットアイの磨耗限度

ルネットアイとピントルフックの結合部の径をノギスなどで測定してください。

	A: 前後	B: 上下
標準径	41 mm	41 mm
使用限度	37 mm	35 mm

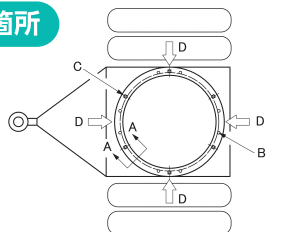


ルネットアイはフルトレーラとトラクタを連結する重要な部品です。磨耗の程度、異常な傷付きがないかなどを点検して異常が認められた場合には交換してください。

### ターンテーブルの点検整備

ターンテーブルの点検時にはフルトレーラを平坦な場所に置き、車輪止めをして、駐車ブレーキを作動させてください。

#### 点検箇所

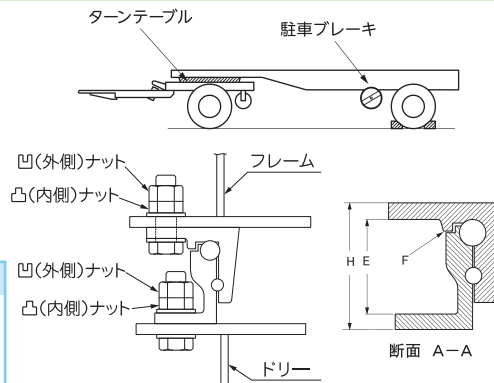


#### ●取付ボルトの緩み点検(図示B 8か所×上下)

※ハードロックナットは2種類あります。凸(内側)ナットの締付トルクが異なるためご注意ください。

凹(外側)ナット形状	凸(内側)ナット締付トルク	凹(外側)ナット締付トルク
リム無し	172 N・m	70 ~ 100 N・m
リム付き	240 N・m	

点検時期:3ヶ月 シビヤコンディション:1ヶ月



●給脂(図示C グリスニップル6か所)  
図示Fからグリスがにじみ出るまで給脂する。

点検時期:3ヶ月  
シビヤコンディション:1ヶ月

●ターンテーブルのガタの点検(図示D 4か所)  
図示E:58mm 図示H:86mm以下の時はターンテーブルを交換する。

点検時期:3ヶ月  
シビヤコンディション:1ヶ月

◆シビヤコンディション=駐車ブレーキの多用や山道の頻繁な走行、10,000km/月以上走行する場合

日本トレクスのトレーラに不具合が発生しお困りの際は、弊社営業マンもしくはサービス部までご連絡をお願いします。

TEL 050-3367-7494